

人間発達環境課程人間環境教育コース「豊島プロジェクト」の紹介

コース主任 村山 聡

人間環境教育コースでは、2004年4月から、大量の廃棄物が不法に投棄された香川県土庄町の豊島（てしま）が抱える課題や島の魅力を多角的に研究する「豊島プロジェクト」を発足しました。このプロジェクトは、3部門から成り立っています。第一は、コース2年生の前期のコンピュータ学習と後期に実施する生涯学習に関する諸施設を訪問調査する実践研究Ⅰとの二つの演習を組み合わせた「豊島プロジェクト教育プログラム」*です。第二は、豊島の自然、文化、社会などを幅広くまた深く学習し、卒業研究として結実させる「豊島プロジェクト卒業研究」です。そして第三に、コースに在籍する学生のほか、大学院生の参加も得ながらより高度なフィールドサイエンス（地域研究）についての演習を行う「豊島プロジェクトOS」です。OSというのはドイツ語のOberseminar（オーバーゼミナール＝上級演習）の略です。博士課程レベルの内容ですが、学生も聞くことができます。

ここではその中で、2年生向けに行っている「豊島プロジェクト教育プログラム」の一部を紹介したいと思います。2002年度以降、豊島小学校と大学とをインターネットで接続し、大学生と小学生の「絵日記」の交換を行って来ました。2003年度には、種々のデータベースの作成ならびに独自のホームページ作成に取りかかりました。そして2004年度には、年間を通じて、豊島小学校との交流を継続できるような試みをしてきました。豊島小学校は全校児童37名の学校です。教員数も10名程度で、次第に、種々の教育プログラムを維持することが難しくなって来ているようです。小学校と大学との交流が有意義なものであることは双方で認識しつつも、現状では、コンピュータメディアの活用などで、さらに教員の負担を増加させるのは無理な状況です。それゆえ、このような島の小学校においても、より充実した教育機会を提供できないかと現在模索中です。

2005年度は、これまでの成果を踏まえて、さらなる飛躍を目指して、学生と7名の担当教員が共同して、2年生向けの「豊島プロジェクト」を充実させるべく奮闘しています。

4月24日、コース所属の2年生全員が、豊島・直島エコツアーに参加しました。多くの学生は、はじめての豊島訪問です。産業廃棄物不法投棄現場や住民会議事務局を訪問すると同時に、現在、隣の直島で進行している廃棄物処理の現状を視察しました。

学生たちが、最も関心を持って聞き入っていたのは、「豊島のこころ資料館」における石井亨県会議員による豊島の人々の闘争の歴史と現状でした。写真左はその様子です。豊島の住民でもある石井氏の話は、学生の心に強く響いたと思います。快晴の4月24日の訪問は、多くの暗い歴史を引きずっている島の人々に思いを寄せる好い機会だったと思います。右の写真はその資料館で撮影した学生の写真です。

2年生の学習はこれからです。豊島の小学生と先輩たちのやりとりの記録を観察し整理し、また、先輩たちが豊島についてこれまで調べてきたことを分析し、自分たちは今後新しく何ができるのかを考える日々が始まりました。この年報の記事が父兄の方々の目に触れる頃には、学生たちはすでにかかなりの研究成果を生みだしていることでしょう。

*さらに詳しくは次の論文をご参照ください。村山聡、松村雅文、青木昌三、小池和男、渡邊安男「こどもメディア開発―香川県土庄町立豊島小学校との交流開始―」（『香川大学教育実践総合研究』第9号（2004年9月）所収（57-72頁）。

